

パソコン同好会 5月例会資料

1. 今月のテーマ

- 1) 会報「ひびき」バックナンバーのデータベース化について(口頭)
- 2) パソコンのメンテナンス 「仮想メモリ」の設定

2. 「仮想メモリ」の設定

本来、実搭載メモリの容量不足対策として採られた対応策。1～2GBのメモリが搭載されているなら、メモリ確保のためHDDにアクセスする「仮想メモリ」の設定は、逆効果で処理速度となる危険もある。

仮想メモリの設定

デスクトップの「マイコンピュータ」を右クリック。表示されるメニューから「プロパティ」を開く。

続けて「詳細設定」タブを開く。

次に、「パフォーマンス」の項目にある「設定」のボタンを押す。



「パフォーマンスオプション」が開かれる。

「詳細設定」タブを開く。



「仮想メモリ」の項目にある「変更」ボタンを押す。

「仮想メモリ」設定ページが開かれる。

「ページングファイル」という名前の、HDD上に確保される「仮想メモリ」の大きさを設定する。

設定する「ドライブ」を指定する。

「カスタムサイズ」を選択し、「初期サイズ」及び

「最大サイズ」を入力する。



注 設定変更前の仮想メモリ数値は記録しておく。

初期値と最大値は、同値が望ましい。

大容量の実メモリが搭載されている場合は

「ページングファイルなし」の選択が望ましい。

「システムの復元」を使って、元の設定に戻す場合は

を想定し、新しく設定する前に、「復元ポイント」の設定も行っておく。

最適な「仮想メモリ」のサイズ

先ず、いつも起動しておこなう作業をする。

例 メールを送受信やネット閲覧。画像の編集。文書の作成 etc。

- 1) 通常メモリ使用量をチェックする。
「タスクバー」の地の部分を右クリック。「タスクマネージャ」を開く。
- 2) 「パフォーマンス」タブを開く。
「コミットチャージ」欄の最大値をメモする。

- 3) 通常は、前記「仮想メモリ」設定で入力した「初期値」にこの「最大値」を入力する。ただし、MB単位。

「仮想メモリ」設定の「最大サイズ」には、「初期値」に設定した「数値」の2倍を設定する。



Dドライブに「仮想メモリ」を設定する

Dドライブの空き容量が、Cドライブの空き容量と同じ程度か、大きい場合には、Dドライブに「仮想メモリ」を設定することが望ましい。

設定は、「Cドライブに設定」と同じ手順で行う。

ただし、ドライブの選択で「C」を選択し「ページングファイルなし」を選択。

その後に「D」ドライブを選択、「仮想メモリ」の設定を行う。

注 「C」と「D」のドライブに同時に読み・書くのは負担が大きい。処理速度の観点からは推奨できない。物理的に「別のドライブ」が必要。

「仮想メモリ」とデフラグ

デフラグ（最適化）を行うと、「移動できないファイル」によってデフラグの効果が減衰する。その「移動できないファイル」を、極力小さくすることが必要でそのため、デフラグは「セーフモード」で起動し実行したい。

通常、「仮想メモリ」領域も移動できない。また、「仮想メモリ」サイズに巾がある設定ではその領域もHDD上で分散し、連続せず断片化される。

- 1) 「C」ドライブから「仮想メモリ」を削除する（「ページングファイルなし」に設定）。
- 2) セーフモードで起動。デフラグを実行する。
- 3) 通常起動を行い、「仮想メモリ」を設定する。カスタムサイズで、「初期サイズ」と「最大サイズ」とを同数で設定する。

今月のフリーソフト

メモリ領域の連続化ソフト 「メモリの掃除屋さん」 対応 Windows2000/XP

URL <http://www6.plala.or.jp/amasoft/>

通知領域に常駐し、マウスポインタを当てると現在のメモリ使用状況を表示する。
ダブルクリックすると、設定画面が表示される。